

## パラオ共和国アンガウル州における言語教育

### The linguistic education in Angaur state, the Republic of Palau

浦谷 淳子

#### はじめに

周知のように、日本語が憲法で公用語に定められているのは、パラオ共和国のアンガウル州だけである。現地での聞き取り調査によると、1940年ごろは、アンガウル州に多くの日本人が住んでおり、日本語教育が行われ、アンガウル人の多くが日本語を話していたそうである。

当時、アンガウル州の人々にとって外国語である日本語が、学校教育としてどのように教えられていたのかについて調査することは、2020年度から日本の公立小学校の高学年に教科として英語が導入されることへのヒントになるのではないかと考える。

以下、1. パラオ共和国について、2. アンガウル州とその言語教育について、3. おわりにで、日本の英語教育との関連を考える上での課題について述べる。

#### 1. パラオ共和国

##### 1-1. 概要

パラオ共和国は日本の南方に位置し、約300の島から成る。(図1) 国際飛行場と首都はバベルダオブ島にあり、人口は約18,000人(世界銀行2018年)で16州あり、人口が一番多い州はコロール島のコロール州である。コロール州は元首都であったが人口増加の影響で、2006年10月にバベルダオブ島のマルキョク州に遷都した。

##### 1-2. 歴史

パラオ共和国は1885年からスペインの植民地となり、1899年のドイツ・スペイン条約によってドイツに売却された。ドイツは主にココナッツやタピオカの栽培、リン鉱石の採掘に取り組んだ。

第一次大戦後、1919年のパリ講和会議によって日本が南洋諸島を委任統治することになり、コロール州に南洋庁を設置し、委任統治は1945年まで続いた。この委任統治時代に日本から多くの移民があり、ベラウ国立博物館展示資料によると、1937年の日本人の人口は11,391人で、パラオ人の人口の約3倍であった。ちなみに「ベラウ」とはパラオ語で「パラオ」を指す。

また、それまでほとんど進んでいなかった学校や鉄道、水道設備などの充実を日本が行った。パラオ人対象の学校は公学校という名前で、本科(3年間)と補習科(2年間)

があり、本科には8歳ごろ入学し、南洋庁が発行した教科書『南洋群島国語読本』(図2)を用いた。そして本科で成績優秀だった者が補習科へ進学し、補習科で成績優秀だった者はさらに木工子弟養成所に進学した。この木工子弟養成所は現在のパラオ地域短期大学の前身である。

その後、1947年からアメリカ合衆国の信託統治地域となった。1981年にパラオ共和国が自治政府を発足し、1982年にアメリカ合衆国との間で自由連合盟約(コンパクト)案が作成された。コンパクトは2044年まで有効である。

1994年にパラオ共和国は独立し、国際連合に加盟した。現在は、アメリカ合衆国とのコンパクトに基づく無償援助に大きく依存し、台湾や日本からの無償援助にも依存している。



図1 パラオ共和国の地図 出所：『日本を愛した植民地 南洋パラオの真実』



図2 ベラウ国立博物館『南洋群島国語読本』のコピー (2019年9月許可を得て撮影)

### 1-3. 独立記念式典

2019年10月1日、パラオ共和国の25周年独立記念式典が首都のあるバベルダオブ島マルキョク州のパラオ国会議事堂近辺で行われた。(図3) 式典にはパラオ共和国を支援している日本、台湾、アメリカ合衆国の代表が参加していた。また多くのパラオ人やパラオ在住の日本人などが集まり、食事や花火を楽しんでいた。

パラオ共和国には公共交通機関がないため、ほとんどの参加者は自家用車で来場する。そのため、駐車場はもとより道路にも車があふれており、式典後は大混雑であった。筆者も駐車場から出ることができたのは式典が終わって1時間後であった。

また2019年11月12日には東京パレスホテルでパラオ共和国独立及びパラオ・日本外交関係樹立25周年記念祝賀会が行われ、レメンゲサウ・パラオ共和国大統領、フランシス・マツタロウ駐日パラオ大使、安倍首相、茂木外務大臣等を含め約900人が参加した。

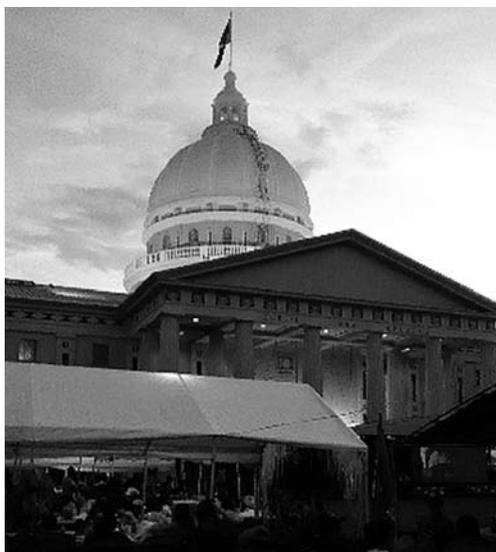


図3 記念式典が行なわれたマルキョク州パラオ国会議事堂

## 2. アンガウル州

アンガウル州はパラオ共和国にある16州のうちの一つで、バベルダオブ島の空港から南方にセスナ機で約30分(毎週火曜日と土曜日運行)、またはジェットボート(毎週金曜日運行)で1時間ほどの所に位置している。(図1)

アンガウル州があるアンガウル島は東西3km、南北4kmほどの小さな島で、自転車ならば3時間ほどで一周することができる。(図5)

2019年現在のアンガウル州の人口は約300人で、日本人はいないそうである(州知事Leonさん談2019年9月)が、アンガウル島人口推移のグラフ(図6)によると、日本が統治していた時代には日本人が多くいたことが分かる。



図5 アンガウル州の地図 出所：パラオ・アンガウル州立自然公園ホームページ

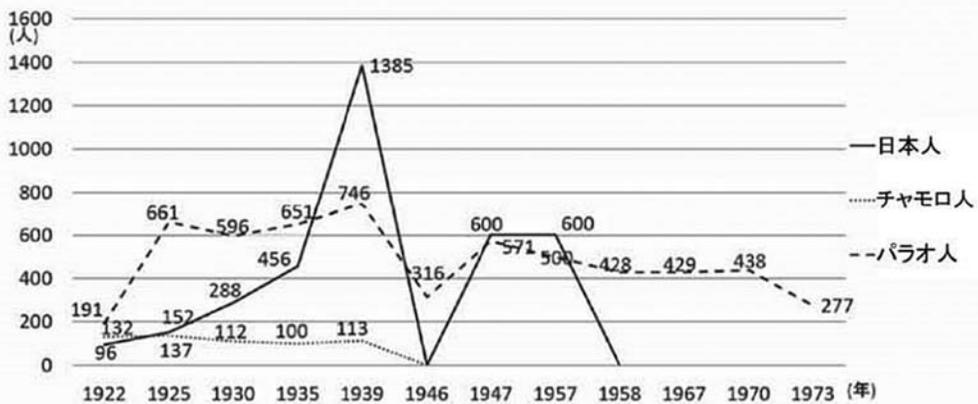


図6 アンガウル島人口推移 出所：「パラオ国アンガウル島における日本語の使用」

### 2-1. アンガウル州の憲法における公用語としての日本語

アンガウル島の東側にあるビジターセンターを訪問し州憲法の閲覧を依頼したところ、翌日にそのコピーをいただくことができた。対応して下さった現アンガウル州知事のLeonさんに州憲法の実物を見せていただきたいと依頼したが、それはアメリカ本土にあり、アンガウル州にもコピーしかないとのことであった。

州憲法は1982年10月8日に制定され、全13ページ、その10ページ目の第12項に公用語

についての記載がある。(図7) 以下に抜粋する。

(A) : Official Languages.

Section 1. The traditional Palauan language, particularly the dialect spoken by the people of Angaur State, shall be the language of the State of Angaur, Palauan, English and Japanese shall be the official languages. (下線は筆者)

このように、確かにJapanese (日本語) が公用語の一つであると明記されている。

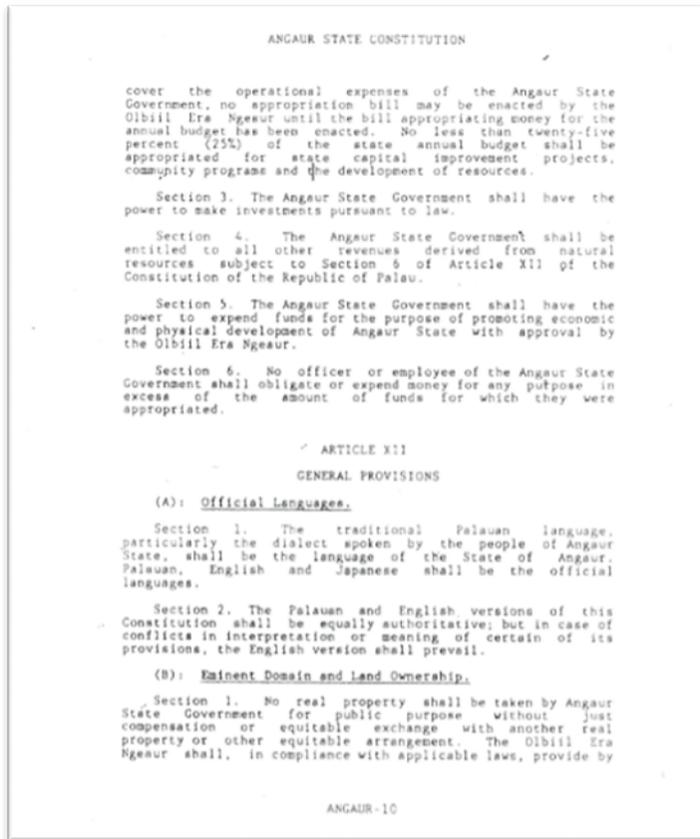


図7 アンガウル州憲法のコピー 公用語に関する第12項

パラオ共和国では日本の統治時代に公学校が作られ、パラオ人が日本語を学び、その当時は日本語を流ちょうに話すことができるパラオ人が多かったそうである。しかし、公用語に日本語が定められているのはパラオ共和国の16州うちのアンガウル州だけである。なぜ、アンガウル州だけが日本語を公用語に定めたのであろうか。

アンガウル州憲法の最終ページに憲法制定会議の参加者が書かれているが、その時の参加者の一人であり州知事であったChief Obak Andres Ucherbelau (以下Andres) さんから当時の話を聞くことができた。(2019年9月) Andresさんは、クニオ・ナカム

ラ氏がパラオ共和国第6代大統領であった時の外務大臣でもあった。

Andresさんは1934年生まれで現在85歳である。高齢のため、病院のないアンガウル州を離れ、国立病院があるコロール州に居住している。8歳からアンガウル州の公学校で学び、野田先生という日本人の先生にかわいがってもらったそうである。また、毎朝、授業前に体操をして、君が代を斉唱したともおっしゃっていた。

アンガウル州憲法で公用語の一つに日本語を定めた理由を尋ねたところ、以下のように、英語と日本語の混合で答えてくださった。

We grew up because (thanks to) Japanese. おかげだよ。

Someday we speak Japanese in Angaur. (again) ( )は筆者が補足。

そして、現在、日本語教育がおこなわれていないことに不満をお持ちのようで、私に

You must teach Japanese in Angaur. あんたがする。

と、アンガウル州で日本語教育を再開することを希望されていた。

また、日本語を学ぶことへの反発がなかったのかという質問に対しては、

ないよ。近所に日本人が多くいて、日本語を話したかったよ。

でも叔父さんは言っていたな。No choice. We have to learn Japanese. だって。

と、当時8歳の子どもであったAndresさんは、周りに日本人がたくさんいて、日本語を話すことに違和感はなかったようである。しかし大人である叔父さんは、外国語である日本語を強要されたことに反発していたと推測することができる。

## 2-2. アンガウル小学校

アンガウル島のほぼ中央に位置するアンガウル小学校(図8, 9)を訪問し、言語の授業を参観させていただきたいと依頼したところ、教頭のTricia O' Brien先生が対応し、参観を快諾してくださった。Tricia O' Brien先生は5, 6年生の担任も兼ねていて、以前にJICAで九州の小学校を訪問された経験があるそうである。

現在のパラオ共和国の公立小学校では日本語の授業はなく、唯一の公立高校であるパラオ高校(コロール州)で、選択科目として日本語の授業が設置されているとのことである。

パラオ高校の近くで出会った高校生に英語でインタビューをしたところ、流暢な英語で、選択科目として日本語と中国語があるが、日本語を選択する生徒が多いことを教えてくれた。日本語を話せる祖父母への憧れから、日本語を選択する傾向にあるようである。

アンガウル小学校でも日本語の授業は行なっていないが、言語の授業を参観させていただけることになった。1単位時間は45分間であった。以下、アンガウル小学校の概要及び言語の授業の内容である。

Kindergartenから8年生までの児童生徒が在籍し、児童生徒は制服を着用し、上は白色の半袖ポロシャツかカッターシャツ、下は黒色のスカートか半ズボンであった。児

童生徒の総数は14人で女子9人、男子5人。内訳は **kindergarten** が1人、1年生が2人、2年生が2人、3年生が1人、4年生が2人、5年生が2人、6年生が2人、7年生が1人、8年生が1人である。アンガウル小学校卒業後は、パラオ高校へ進学するため、島を出てコロール島で住み、週末にアンガウル島へ戻ってくるそうである。

教員は校長先生、教頭先生を含めて9人である。5, 6年生と7, 8年生は複式学級で、**resource room** とはスローラーナーのための英語と算数の支援学級である。(表1)

授業の間に15分間のフリータイムがあり、男子は全員が前庭でラグビーボール投げをしていた。女子は前庭でサッカーボールのけり合いをする子、ぶらんこに乗る子、りんごを食べる子など、さまざまであった。

表1 アンガウル小学校の児童生徒数・教員数

学級など	担当教員	女子	男子
<b>kindergarten</b>	女性	1	0
<b>1st</b>	女性	1	1
<b>2nd</b>	女性	1	1
<b>3rd</b>	男性	1	0
<b>4th</b>	女性	1	1
<b>5th</b>	女性 (教頭の <b>Tricia O'Brien</b> 先生)	1	1
<b>6th</b>	同上	1	1
<b>7th</b>	男性 (英語指導は <b>Tricia O'Brien</b> 先生)	1	0
<b>8th</b>	同上	1	0
校長先生	女性		
<b>resource room</b>	女性		
合計	9人	9人	5人



図8 アンガウル小学校前庭



図9 校舎 (どちらも許可を得て撮影)

### 2-3. アンガウル小学校での言語教育

全学年の参観をさせていただけたが、時間割の関係でkindergarten, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8年生の英語の授業と、1年生のパラオ語の授業を参観させていただいた。

① kindergarten: 絵本の読み聞かせ

② 2年生: 絵本を用いて、先生が **Which is the capital letter?** と尋ね、児童はアルファベットの答えたり指さしをしたりしていた。「2年生なので絵本を用いた英語の授業を大切にしている。」と授業後に先生が教えてくださった。

③ 3年生: 先生が **What if you were trying to help a friend and they don't appreciate your advice?** と英語で尋ね、板書し、児童はノートに英文を書こうとしていた。短時間のため、児童の英語での発話は確認できなかった。以下の板書もあり、指示語と複数形の確認もしていた。

Close to you This These Our	Away from you That Those Their	Singular This That Plural These Those Our Them
--------------------------------------	---	--

④ 4年生: 先生はパラオ語で説明し、板書は次のように英語で行なっていた。Use knowledge of how compare and contract is structure in their L1 to Understand (comparing and contracting) in English.

この問いに対して児童はノートに英文を書こうとしていた。短時間のため、児童の英語での発話は確認できなかった。以下の板書もあり、母語（パラオ語）と外国語としての英語の比較をしていた。

Palauan Language L1	English Language L2
Singular	
1st person → ik blik	My house
2nd person → im blim	Your house
3rd person → il ilil	His house/Her house
Plural	
1st person → id blid	Our house
2nd person → iu blimiu	Your house
3rd person → ir blirir	Their house

⑤ 5.6年生: 先生は **List 5 reasons why people lie.** と板書し、英語とパラオ語の両方で説明していた。12問の単語テストをおこなったが、単語の書き取りだけでなく、その後についての英語での説明をしていた。例えば、**Probably: Next year we probably play volleyball.**

⑥ 7.8年生: (生徒は英語担当の **Tricia O'Brien** 先生の教室へ移動) 単語テスト後、先生の発話で答え合わせをし、課題プリントで **Mixed up sentences** に取り組む。先生は英語

とパラオ語の両方で説明していた。教室には以下の本があり、児童が自由に閲覧できるようにであった。

Macmillian/McGraw-Hill Language Arts  
Speedy spelling (options publishing) Nancy Frey  
Spider match (Giant coloring & activity book Marvel

さらに、5, 6, 7, 8年生が英語の学習をする5, 6年生の教室の児童机には「SRA : 5th 6th 7th 8th English and Nap time」の表(表2)が貼ってあり、児童生徒に毎日の英語授業の内容を把握させていた。SRAの意味については残念ながら尋ねる時間がなかった。

表2 SRA : 5th 6th 7th 8th English and Nap time

Day	English Class (10m)	Nap Time (30m 12:30-1:00)
Monday	10m Journal writing	10m SRA skill builder 20m Read-Aloud
Tuesday	5m Journal writing 5m vocabulary	10m SRA skill builder 20m Read-Aloud
Wednesday	5m Journal writing 5m Spelling	10m SRA skill builder 20m Read-Aloud
Thursday	m Journal writing 5m 5/6 Rate builder 7/8SRA	10m SRA skill builder 20m Read-Aloud
Friday	90m library	10m Read-Aloud 20m Writing

このように、アンガウル小学校では、身体で表現させたり、母語を併用したり、母語との比較を行ったりしながら、児童生徒の発達段階に応じた段階的な英語教育を行っていた。

### 3. おわりに

州憲法で日本語が公用語に定められているアンガウル州における、日本語教育の歴史を探ることによって、日本の小学校における外国語教育のヒントを得たいと考えていたが、日本の統治下であったり、アンガウル人よりも日本人の方が多く住んでいたりと、歴史的な背景が日本とは大きく異なるため、直接的なヒントを得ることはできなかった。

アンガウル州では、公立小学校でkindergartenから8年生までの児童生徒に英語教育を行っており、5, 6, 7, 8年生は毎日英語の授業があるという現状を知ることができた。2-2で少し触れたが、パラオの高校生が流暢に英語を話すことができる理由の一つは、地域の差は多少あるだろうが、学校教育における英語の時数の多さであると考えられる。ただ、日本の公立小学校に英語の授業を増やすという提案は現実的ではない。

ところで、パラオ語には日本語由来の借用語が約1000語あるといわれているが、その借用語を日本語学習に活用することはできないだろうか。一方、日本語にも英語由来のカタカナ語が多くある。今後は、パラオ高校の日本語授業における日本語借用語

活用の有無を探ることを通して、日本における、借用語を利用した英語教育のヒントを得たいと考えている。

## 参考文献・資料

- 荒井利子2015『日本を愛した植民地 南洋パラオの真実』新潮社  
アンガウル州憲法 1982年10月8日
- 井上和彦2015『パラオはなぜ「世界一の親日国」なのか』PHP研究所
- 今村圭介 ダニエル・ロング2019『パラオにおける日本語の諸相』ひつじ書房
- 今村圭介2017「パラオ語における日本語借用語の変化」東京医科歯科大学教養部研究紀要第47号17-31
- 齋藤敬太 磯野英治2016「パラオ人の日本語にみられる談話の特徴—ターン交替時の発話を中心に—」日本語学研究第48輯21-32
- 鈴木順一 香山侑美2018『パラオの面白い話』文芸社
- ダニエル・ロング 今村圭介2016「パラオ国アンガウル島における日本語の使用」日本語研究13-26
- ダニエル・ロング 今村圭介2015「日本語が公用語として定められている世界唯一の憲法—パラオ共和国アンガウル州憲法—」『人文学報』61-77
- ダニエル・ロング 齋藤敬太 Masaharu Tmodrang2015「パラオ語で使われている日本語起源借用語」『人文学報』503 61-84
- 三田牧2011「まなざしの呪縛—日本統治時代パラオにおける「島民」と「沖繩人」を「めぐって」『コンタクト・ゾーン= Contact zone』4 : 138-162
- 森岡純子2006「パラオにおける戦前日本語教育とその影響—戦前日本語教育を受けたパラオ人の聞きとり調査から—」『立命館法学別冊 山口幸二教授退職記念論集ことばとそのひろがり』331-397
- 山上博信2012「パラオ共和国アンガウル州憲法で『日本語』が公用語の一つとされた事情」移民政策学会2012年度冬季大会
- Daniel Long Keisuke Imamura 2013 *The Japanese Language in Palau*. National Institute for Japanese Language and Linguistics
- Keisuke Imamura Jonathan Masaichi 2016 *Phonological Change of Japanese Loanwords in Palauan: Toward the standardization of spelling of loanwords*. 東京医科歯科大学教養部研究紀要第46号35-46
- 外務省ホームページ パラオ共和国 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/palau/data.html#section1>  
最終閲覧2019年12月30日
- 国際機関太平洋諸島センターホームページ <http://www.pic.or.jp> 最終閲覧2019年12月30日
- パラオ・アンガウル州立自然公園ホームページ <http://www.ows-npo.org/angaur/>  
最終閲覧2019年12月30日